

日医ニュース

2020. 4. 5 No. 1406

日本医師会
Japan Medical Association

〒113-8621 東京都文京区本駒込2-28-16
電話 03-3946-2121(代)
FAX 03-3946-6295
E-mail www.info@po.med.or.jp
http://www.med.or.jp/

毎月2回 5日・20日発行 定価 2,400円/年(郵税共)



- トピックス**
- 新型コロナウイルス感染症担当理事連絡協議会 …… 2～3面
 - 定例記者会見 …… 4面
 - 介護保険担当理事連絡協議会 …… 5面

冒頭あいさつした横倉義武会長は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向けた各都道府県医師会の対応に謝意を述べた上で、(1)働き方改革への対応という大きなミッションのため、診療報酬改定率プラス0・55%のうち0・08%(公費約126億円)に加え



都道府県医師会社会保険担当理事連絡協議会が、本年4月からの診療報酬の改定概要の説明と、その内容を伝達することを目的として、3月5日に日医会館小講堂で開催された。今回の協議会は、新型コロナウイルス感染症の影響からTV会議システムによる中継形式がとられ、松本吉郎常任理事から、資料を基に改定内容のポイント等について詳細な説明が行われた。

度改定を踏まえた改定となった——ことなどに言及。今回、新型コロナウイルス感染症の影響で、厚生労働省の説明会や各厚生局が行う集団指導が中止となっていることについては、「届出や審査支払等について、最大限の柔軟な対応を関係各所に

「紹介状なしで一定規模以上の病院を受診した際の定額負担」並びに「紹介率等の低い病院に対する初診料等減算」の対象範囲を拡大する観点から見直しが行われたと

「かかりつけ医機能の推進」が創設されたこと、有床診療所入院基本料の引き上げ、婦人科特定疾患治療管理料の創設等

「医療従事者の負担軽減・働き方改革の推進」については、「地域の実情に応じて民間医療機関も含めて適切に使われるよう求めている。都道府県でも積極的な対応をお願いしたい」と要請した。

「かかりつけ医機能の推進」が創設されたこと、有床診療所入院基本料の引き上げ、婦人科特定疾患治療管理料の創設等

「医療従事者の負担軽減・働き方改革の推進」については、「地域の実情に応じて民間医療機関も含めて適切に使われるよう求めている。都道府県でも積極的な対応をお願いしたい」と要請した。

「医療従事者の負担軽減・働き方改革の推進」については、「地域の実情に応じて民間医療機関も含めて適切に使われるよう求めている。都道府県でも積極的な対応をお願いしたい」と要請した。

「医療従事者の負担軽減・働き方改革の推進」については、「地域の実情に応じて民間医療機関も含めて適切に使われるよう求めている。都道府県でも積極的な対応をお願いしたい」と要請した。

都道府県医師会社会保険担当理事連絡協議会 令和2年度診療報酬改定概要を説明し その周知に対する協力を求める

令和2年度診療報酬改定に関する基本的な視点

- 医療従事者の負担軽減、医師等の働き方改革の推進 (重点課題)
- 患者・国民にとって身近であって、安心・安全で質の高い医療の実現
- 医療機能の分化・強化、連携と地域包括ケアシステムの推進
- 効率化・適正化を通じた制度の安定性・持続可能性の向上

第2回・第3回都道府県医師会新型コロナウイルス感染症担当理事連絡協議会

新型コロナウイルス感染症への 対応について協力を要請

都道府県医師会新型コロナウイルス感染症担当理事連絡協議会の第2回目（3月6日）、第3回目（3月13日）、テレビ会議システムを利用して、日医会館でそれぞれ開催された。



第2回（3月6日）

冒頭あいさつした横倉義武会長は、安倍晋三内閣総理大臣、加藤勝信厚生労働大臣、萩生田光一文部科学大臣に対応を求め、要請書を提出したことを報告。現状を踏まえ、原則3月中は毎週金曜日の夕方に、本協議会を継続して開催することを示すとともに、「国内での急速な感染拡大が

懸念されるなど、今が正に正念場の時期にある。国民の生命と健康を守るため、医師会を挙げて取り組みを進めていきたい」と述べ、引き続きの理解と協力を求めた。

その後は、釜淵敏常任理事が、「（1）「新型コロナウイルス感染症専門家会議」の中の議論では、3月5日時点の日本の感染状況について、今後、急速に拡大する状況には

多くの医師会から、マスク等の資材が不足している窮状が訴えられたことに対して、横倉会長は、国がマスクを全国に供給することになっていくが、日医としても必要枚数を把握する調査を実施し、その結果を国に伝える意向を表明。また、一

般社団法人日本医療国際化機構から、12万枚の医療用マスクの提供を受ける（関連3面）ことを明らかにし、都道府県医師会を通じて、各医療機関に配布する予定であるとして、理解を求めた。

医療機関が休業せざるを得なくなった場合の補償を求める質問に対しては、城守国斗常任理事が、国に対して休業補償とともに、今回の新型コロナウイルス感染症が民間の休業補償保険の対象となるよう求めていくとした。

更に、PCR検査が体制整備がなされないまま、急な配備を求める要望書を同日に提出した（右記

ないとの認識である、（2）感染防御対策をしっかり取った上で診療を行った場合、医師は濃厚接触者には当たらないという点で整理がなされる予定である——ことなどを説明。日医が実施している「新型コロナウイルス感染症に係るPCR検査を巡る不適切事例」に関する調査については、引き続きの協力を求めた。

松本吉郎常任理事は、PCR検査が保険適用になったことで、全ての医療機関で検査への対応が可能との誤解が生じているとし、「対応できない医療機関は、帰国者・接触者外来等の検査体制の整った医療機関を紹介するよう対応をお願いしたい」と述べた。

に、保険適用されたことに遺憾の意が示されたことに対しては、松本常任理事が、体制を整備してから進めるよう、厚労省には再三申し入れを行ってきたことを説明し、今回の厚労省の対応については、大変残念に思っているとした。

その他、神奈川県医師会から、相模原市の感染症指定医療機関で研修医が感染したことで、市の救急医療が危機的な状況にあることを報告。東京都医師会からは、「感染症の治療に当たっては集中治療室で対応することが大事であることから、全国で、どの集中治療室が空いているのかが分かるようなネットワーク化を図る」「感染者の搬送に消防の救急隊員を活用する」といった提案もなされた。

引き続き、釜淵常任理事が、「（1）専門家会議の「見解」、（2）地域における帰国者・接触者相談センターに対する支援体制の構築、（3）新型コロナウイルス感染症が疑われる者の診療に

6都道府県医師会から現状説明を受ける

多くの医師会から、マスク等の資材が不足している窮状が訴えられたことに対して、横倉会長は、国がマスクを全国に供給することになっていくが、日医としても必要枚数を把握する調査を実施し、その結果を国に伝える意向を表明。また、一

に、保険適用されたことに遺憾の意が示されたことに対しては、松本常任理事が、体制を整備してから進めるよう、厚労省には再三申し入れを行ってきたことを説明し、今回の厚労省の対応については、大変残念に思っているとした。

その他、神奈川県医師会から、相模原市の感染症指定医療機関で研修医が感染したことで、市の救急医療が危機的な状況にあることを報告。東京都医師会からは、「感染症の治療に当たっては集中治療室で対応することが大事であることから、全国で、どの集中治療室が空いているのかが分かるようなネットワーク化を図る」「感染者の搬送に消防の救急隊員を活用する」といった提案もなされた。

引き続き、釜淵常任理事が、「（1）専門家会議の「見解」、（2）地域における帰国者・接触者相談センターに対する支援体制の構築、（3）新型コロナウイルス感染症が疑われる者の診療に



横倉義武会長は3月13日、厚生労働省において、加藤勝信厚労大臣と会談し、医療用マスク、防護

具等の配備を求める要望書を手交した。

会談の中で横倉会長は、政府が「新型コロナウイルス感染症に関する緊急対応策（第2弾）」に基づき、医療機関向けマスク1500万枚を一括購入し、必要な医療機関に優先配布するなど、更なる増産に向けて取り組んでいることに対して、感謝の意を表明した上で、医療現場において「サージカル、N95等の医療用マスク」や「フェイスシールド、ガウン等の防護具」の不足が深刻

横倉会長

**医療用マスク、防護具等の配備を求める
要望書を提出**

横倉義武会長は3月13日、厚生労働省において、加藤勝信厚労大臣と会談し、医療用マスク、防護具等の配備を求める要望書を手交した。

会談の中で横倉会長は、政府が「新型コロナウイルス感染症に関する緊急対応策（第2弾）」に基づき、医療機関向けマスク1500万枚を一括購入し、必要な医療機関に優先配布するなど、更なる増産に向けて取り組んでいることに対して、感謝の意を表明した上で、医療現場において「サージカル、N95等の医療用マスク」や「フェイスシールド、ガウン等の防護具」の不足が深刻

な状況にあることを説明。「患者さんを診るに当たって、これらは感染防止に不可欠なものである」として、早急な配備を求めた。

これに対して、加藤厚労大臣は、マスクと防護具の確保に向けたこれまでの政府の対応を説明。「医療が崩壊してしまっ

ては大変なことになる」として、引き続き、マスク、防護具の確保に向け努力していく意向を示すとともに、「その配布の際には、ぜひ協力をお願いしたい」と述べた。

新型コロナウイルス感染症 関連情報

新型コロナウイルス感染症に関する厚生労働省からの通知等、最新の情報は日医ホームページに掲載しています。ぜひ、ご活用下さい。

新型コロナウイルス感染症

http://www.med.or.jp/doctor/kansen/novel_corona/009082.html

「医療機関における休業補償等」については、城守常任理事が雇用調整助成金の特例の活用を紹介し、この問題については、羽生田俊参議院議員が国の対応を求める質問をする予定であると説明。更に、民間の休業補償保険が存在しないことから、その創設を要望していく考えを示した。

小玉常任理事は、新型コロナウイルス感染症により機能停止等となった医療機関関係施設等に対して、福祉医療機構が行っている融資が拡充されていること、納税が困難になった場合の猶予制度があることなどを紹介。松本常任理事は、診療報酬上、算定要件が満たせなくなった場合の対応について、被災地特例と同じ扱いになることを説明した。

「集中治療室に係る情報のネットワーク化」については、石川広己常任理事が人工呼吸器やECMO装置の使い方について、都道府県や医師会、ICU、DMAT関係者等が参加した協議の場を提案した。

長島公之常任理事は、感染者搬送業務への救急隊員の活用について、消防庁に確認し、「保健所等と協定を締結するなど、事前に十分な協議を行った上で、できる限り搬送に協力している」と

の回答を得たことを報告。「活用のためにも都道府県に働き掛けを行って欲しい」と述べた。

松本常任理事は、新型コロナウイルス感染症に係る診療報酬上の臨時的な取り扱いについて概説した他、「令和2年度の診療報酬改定を一時延期すべき」との要望に対しては、今回の改定で重点課題となった働き方改革は待たなしの状況にあることなどを説明し、4月1日からの施行に理解を求めた。

江澤和彦常任理事は、通所サービスを利用できなかった利用者に対して居宅サービスを提供した場合、通所系サービスの報酬区分を算定できない他、都道府県が地域医療介護総合確保基金でマスクを一括購入し、介護事業者に提供することを検討していることを明らかにした。

その他、当日は、石川常任理事が「日本医師会新型コロナウイルス通信」をメールで配信するとともに、日医ホームページのメンバーズルームに掲載していることを、金港常任理事からは、日医が調査を行っている「新型コロナウイルス感染症に係るPCR検査を巡る不適切事例」(3月13日午前10時時点)の結果を報告。

また松本常任理事は、230万人いる在留外国人が今後、医療機関に相

談に来る可能性があることに触れ、「困ったことがあれば、日医に連絡して欲しい」と述べた。

これらの説明に対し、都道府県医師会からは、「帰国者・接触者外」の対応の検討を求める要望などが出された。

中、医療現場からはマスクや消毒液等の医療資源が不足している現状が訴えられていたことにも言及。「この言葉は、手を携えて困難に共に立ち向かう」という意味であると聞き取った。この言葉を励みとして、新型コロナウイルス感染症の早期の終息を目指し、今後も国民と共に戦っていくとの決意を改めて示した。

なお、寄贈されたマスクは、「KF94」であり、サージカルマスクより高濃度のマスクであることから、感染リスクが高い検体採取の際等で使用してもらうため、都道府県医師会を通じて、各医療機関に配布された。

新型コロナウイルス感染症の防疫に資する 高機能マスクの譲渡式を挙行



理事長(右)に感謝状を手渡す横倉会長

今回提供を受けたマスクは、中国電子商取引大手のアリババグループの創業者であるジャック・マー(馬雲)氏が設立した「アリババ公益基金会」と「馬雲公益基金会」が調達したものの一部であり、今年2月初旬に日本において馬雲氏が、二階俊博自民党幹事長と面談した際に、中国の医療現場が困難な現状であることを訴え、日本から防護服の支援を受けたお礼として寄贈された。

同日は、蔣理事長がこれまでの理事長から高機能マスク12万枚の目録が、横倉義武会長から感謝状がそれぞれ手交された。

「一般社団法人日本医療国際化機構より高機能マスク(KF94)を無償で譲り受けることとなり、その譲渡式が3月11日、日医会館で行われた。

当日は、蔣理事長がこれまでの理事長から高機能マスク12万枚の目録が、横倉義武会長から感謝状がそれぞれ手交された。



キーワード
一般社団法人 日本医療国際化機構とは
日中に跨る健康・医療事業を手がけてきた中で培ってきた経験を生かし、日本政府の推進する事業と歩調を合わせながら、社会貢献事業として、更に、それを補完あるいは推進するべく設立された法人である。

人々の健康に関する分野において、中国における豊富なネットワークを活用し、日中間の健康・医療に関する交流をプロモートするとともに、その他のアジア諸国にその成果を伝えていく役割を担っている。

日医 定例記者会見

3月11日

東日本大震災から 9年が経過して



更

横倉義武会長は、東日本大震災の発生から9年が経過したことへの所感を述べた。

同会長は、まず、9年前の同日に起こったマグニチュード9.0というわが国の観測史上最大の地震となった東日本大震災について、死亡者1万5899人、行方不明者2529人、災害関連死3739人が認定に及ぶ未曾有の大災厄であったと、その被害の甚大さを改めて強調。今もなお、約4万8000人が避難を余儀なくされているとして、「犠牲になられた方のご冥福を心からお祈りするとともに、被害者の方々にお見舞い申し上げます」と述べた上で、被災地で再び地域医療を担っている医師、医療従事者達にもエールを贈り、「被災地となった地域の医療の復興を、引き続き支援して行く」との意向を示した。

師会の災害対応能力も高まってきていることを紹介。「東日本大震災以来、各医師会が重ねてきた努力の賜物と言える」との見解を示すとともに、先般、大黒ふ頭のクルーズ船の乗客・乗員に対する子力発電所事故による複合災害と長期にわたる広域避難をも引き起こすなど、阪神・淡路大震災以来構築されてきた日本の災害医療体制を大きく揺さぶるものでもあったと指摘。「南海トラフ巨大地震がいつ起きてもおかしくない今、多数の犠牲者のためにも、震災から得た教訓を未来に向けて生かしていかなければならない」との決意の下、全国医学部長病院長会議と共に立ち上げた「被災者健康支援連絡協議会」を発展させてきた他、その会長の立場で「中央防災会議」委員として参画し、現在、国の防災行政の中で医療の位置付けを高めるべく努めていることなどを説明した。

更に同会長は、「東日本大震災は、福島第一原子力発電所事故による複合災害と長期にわたる広域避難をも引き起こすなど、阪神・淡路大震災以来構築されてきた日本の災害医療体制を大きく揺さぶるものでもあったと指摘。『南海トラフ巨大地震がいつ起きてもおかしくない今、多数の犠牲者のためにも、震災から得た教訓を未来に向けて生かしていかなければならない』との決意の下、全国医学部長病院長会議と共に立ち上げた『被災者健康支援連絡協議会』を発展させてきた他、その会長の立場で『中央防災会議』委員として参画し、現在、国の防災行政の中で医療の位置付けを高めるべく努めていることなどを説明した。

医師の働き方検討委員会 答申まとまる



松本吉郎常任理事は、医師の働き方改革検討委員会が会長諮問「医師の働き方改革」に対して検討結果をとりまとめ、3月6日に相澤好治同委員会委員長

全ての関係者の尽力に対して感謝の意を示した。その上で同会長は、少子高齢社会が到来する中で、要配慮者及び被災者の生命・健康や地域社会を守るためには、国土強靱化(ナショナル・レジリエンス)とともに、地域の医療・介護体制の強化が重要になると指摘。その実現のためには、平時からの地域包括ケアシステム、医療・介護連携を中心としたまちづくりこそが最大の災害対策になるとの考えの下、加藤勝信厚生労働大臣に「今後の災害に備えた地域医療体制の強靱化に関する要望(令和元年11月)等」を提出したことを報告した。

最後に、横倉会長は、現在、災害対応能力の再点検と対策の充実に向けて検討を開始したこと、また多くの方に参考にしてもらうため、過去10年の活動をまとめた記録集も制作予定であることを明らかにし、日医の活動に対する引き続きの理解と協力を求めた。

北里大学名誉教授)より横倉義武会長宛てに提出したことを報告。「日医は、医師の健康確保とともに、国民の健康を守るため、地域医療提供体制を維持する視点が重要と繰り返し主張してきた」と強調した上で、その概要を説明した。

行政と連携し、支援が必要な地域や医療機関を早期に把握することが重要とするとともに、医師の副業・兼業については、医療の特殊性を考慮した上で、適切に議論が進められるべきとしている。また、地域医療への影響を測る指標の必要性について、地域医療への影響の検証を令和6年度の新制度スタートまで待つのではなく、随時検証を行い、必要な対策を講じていくべきとしている。他、時間外労働時間の上限規制の取り扱いについて、地域によって1860時間に収めることが困難なケースが発生する可能性があるとして、その原因を調査し、対応策を検討する必要があるとしている。

本答申の大きな柱の一つである(3)では、①マネジメントの意義②トップマネジメントについて、患者満足・従業員満足に目を向けた勤務環境マネジメントの実践が、離職防止と今後の安定した医療経営の鍵になることをトップ層に理解を促す必要性を指摘している。

『日医君』だより

に登録を

日医では、日医及び各地域医師会発の医師会活動に関する記事や日医ホームページの新着情報などを、『日医君』だより』として電子メールで会員やマスコミ関係者等に直接配信・提供しています。

配信を希望される会員の先生方は、メンバーズルーム(要アカウント)からお申し込み下さい。

問い合わせ先: 日医広報課 ☎03-3942-6483(直)

記事の内容: 日医広報課 ☎03-3942-6483(直)

登録、配信: 日医情報システム課 ☎03-3942-6135(直)

日本医師会 人事課 03-3942-6493 総務課 03-3942-6481 03-3942-6477 施設課 03-3942-7027 経理課 03-3942-6486 広報課 03-3942-6483 情報システム課 03-3942-6135 倉庫情報室 03-3942-6482 電子認証センター 03-3942-7005 0 医療保険課 03-3942-6490 介護保険課 03-3942-6491 年金税課 03-3942-6477 生進教育課 03-3942-6139 編集企画室 03-3942-6488 日本医学会 03-3942-6140 医学図書館 03-3942-6442 国際課 03-3942-6489 総務課 03-3942-6514

第20回都道府県医師会介護保険担当理事連絡協議会 介護保険制度改正に関して説明



り徹底した感染症対策が必要不可欠である」と強調した。

介護保険について、公的保険制度となつてから20年が経過したことを回顧すると、医療と介護、かかりつけ医と介護サービス施設・事業所などの連携体制

の変更への協力を謝意を示した上で、「万が一の事態に備えた国内の医療提供体制をしっかりと整えていくことが重要と考え、日医は『新型コロナウイルス感染症対策本部』を設置し、日々対応に当たっているが、介護保険サービスを利用する高齢の方々は、感染症の重症化リスクが高く、よ

う期待を寄せた。

この他、新型コロナウイルス感染症防止の対応に関する一連の通知を紹介し、社会福祉施設等の利用者などに感染者が発生した場合は、2月28日付の事務連絡を参照して対応することを要請した。

「介護保険制度改正について」
真鍋厚労省老健局長は、社会保険化のピークについては地域で時期が異なることから、医療需要のピークも地域により異なるとし、「人口動態に沿って医療・介護資源を整備していかなくてはならない」と

と強調。保険者別の介護サービス利用者の推計では、ピークを過ぎ減少に転じた保険者がある一方、都市部を中心に2040年まで増え続ける保険者が多いとした。

2040年を展望すると、高齢者人口の伸びは落ち着くが、現役世代の急減に伴い、総就業者数を増やすとともに、より少ない人手でもケアの質を落とさずに回す医療・福祉のシステムをつくる必要があると指摘。

次回の介護保険制度改正の全体像については、(1)介護予防・地域づくりの推進、(2)地域包括ケアシステムの推進、(3)介護現場の革新——が大きな柱になるとし、「その土台として、市町村がその取り組みを後押しできるような保険者機能の強化、市町村や事業所がデータに基づいた提言・計画を立案できるようなデータ活用のためのICT基盤整備に加え、制度の持続可能性の確保のための見直しとして、若干自己負担を増やすことも盛り込んでいく」と説明した。

江澤常任理事は、介護保険サービスを使うことの多い「85歳以上人口」が2040年にかけて右肩上がりに増加することを挙げ、「2025年から2040年の15年間で、わが国がどう変わるか、世界が目指している」と述べた。

その上で、85歳以上の認知症有病率は過半数を越えるとして、かかりつけ医による日常的な医学管理の重要性を強調。国は認知症サポーター医を2025年までに1万6000人とすることを目標としているが、現時点で1万1000人を越えていることから順調との見方を示した。

地域包括ケアシステムの推進における、2025、2040年を見据えたサービス基盤の整備については、高齢者向け住まいで介護保険サービスを受けている中、重度要介護者の存在も考慮して、地域ごとの実情に応じて進める必要があるとした。

江澤常任理事は、介護て、医師会等が市町村の地域支援事業の相談窓口を担当する②地域の実情に基づいた通いの場へのかかりつけ医と医療機関等の支援方策について、定期的な協議の場をもつ③高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施について、企画立案段階から連携する——ことなどを挙げた。

更に、医療・介護現場における新型コロナウイルス感染症対策として、消毒や防護の仕方、情報連携、職員の配置、来訪者の対応などについて概説した。

その後、都道府県医師会より事前に寄せられた質問に対して、厚労省と日医の立場から回答。

介護医療院移行や通所リハビリ(デイケア)等、介護施設の運営に当たり、介護職員や送迎を担う運転手等の確保が困難なために、十分な運営ができなくなってきたり、介護職員の確保に

「これまでも介護職員の処遇改善を図ってきたが、今後はやりがいに関する分析や対応を進めていく必要がある」とも、昨年の10月からの特定処遇改善では、一定の要件下

において運転手、調理員、栄養士なども対象とできるようにしたことを説明した。

江澤常任理事は、介護報酬改定に向けて積極的に議論していきたい」との姿勢を示した。

最後に、松原謙二副会長が、「新型コロナウイルス感染症拡大防止を踏まえ、今回はテレビ会議でご参加頂いた。令和3年度は介護報酬改定の年だが、さまざまな問題があり、高齢化が更に進む中で介護をどのようにしていけばよいか、ご意見を賜りながら、厚労省とも十分議論していきたい」とあいさつをして、協議会は閉会となった。

なお、当日はテレビ会議システムで46都道府県、217名が視聴した。

「介護保険制度改正について」
真鍋厚労省老健局長は、社会保険化のピークについては地域で時期が異なることから、医療需要のピークも地域により異なるとし、「人口動態に沿って医療・介護資源を整備していかなくてはならない」と

「介護保険制度改正について」
真鍋厚労省老健局長は、社会保険化のピークについては地域で時期が異なることから、医療需要のピークも地域により異なるとし、「人口動態に沿って医療・介護資源を整備していかなくてはならない」と

「介護保険制度改正について」
真鍋厚労省老健局長は、社会保険化のピークについては地域で時期が異なることから、医療需要のピークも地域により異なるとし、「人口動態に沿って医療・介護資源を整備していかなくてはならない」と

開業や常勤を外れるご予約の先生方へ

開業や常勤を外れるご予約のある先生方は、ぜひ、医師国保組合への加入をご検討下さい(加入には条件があります)。

医師国保組合は、医師及びその家族と従業員・家族のために設立され、47都道府県全てにあります。

各組合が行う保健事業は、人間ドック・各種検診等への補助、保養施設との提携など、さまざまです。

保険料や加入条件など、詳細については、各都道府県医師国保組合へお問い合わせ下さい。



公益社団法人 日本医師会 女性医師支援センターから 女性医師バンク

事務所移転のお知らせ

女性医師支援センターは日医事務局の再編に伴い2月25日より、下記の通り事務所を移転し、業務を開始しています。

これを機に「日本医師会女性医師支援センター事業」が更に良い事業となりますよう、専心努力していく所存でございますので、今後ともなお一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

記

移 転 先 〒113-0021
東京都文京区本駒込2-28-8
文京グリーンコートセンターオフィス17階

電話番号
女性医師支援センター（業務推進課） 03-3942-6470
女性医師バンク 03-3942-6512

FAX番号
女性医師支援センター（業務推進課）
女性医師バンク (共通) 03-3942-7397

※電話番号、FAX番号はこれまでと同じです。

医師の求人・求職は

日本医師会女性医師バンク <https://www.jmawdbk.med.or.jp/>

登録
件数

求職者数1,537人（累計）、求人施設数5,765施設（累計）、
就業決定及び再研修紹介1,106件（累計）
（令和2年2月末日現在）

問い合わせ先

女性医師支援センター（女性医師バンク）
☎ 03-3942-6512 ✉ info-bank@jmawdbk.med.or.jp

令和元年度臨床検査精度管理調査報告会が3月 予定。



6日、日医会館小講堂で開催された。本報告会は、新型コロナウイルス感染症の感染が拡大していることを考慮し、通常とは異なり、動画撮影のみが行われた（当該動画は後日、専用ホームページで公開

度管理調査報告会が3月 予定。

当日は、3243施設が参加して行われた第53回臨床検査精度管理調査報告として、(1)臨床化学一般検査①(三宅一徳)日医臨床検査精度管理検討委員会委員、(2)臨床化学一般検査②(細萱茂実)同委員会委員、(3)臨床化学一般検査③(糖代謝・尿検査)菊池春人同委員会委員、(4)酵素検査(前川真人)同委員会副委員長、(5)脂質検査(高木康)同委員会委員長、(6)腫瘍マーカー(山田俊幸)同委員会委員、(7)甲状腺マーカー・感染症マ

ーカー・リウマトイド因子(メ谷直人)同委員会委員、(8)血液学的検査(小池由佳子)同委員会委員、(9)測定装置利用の動向(金村茂)同委員会委員) — についての講評が行われた。

高木委員長(写真)は総括の中で、毎年指摘している前置きした上で、分類や数値の桁の誤記入が見られたとする一方で、同じ項目での連続誤登録については年々減少し、今年度は「0」となったことを評価。「参加している項目も評価されない項目がある場合には、理由を検討して改善して欲しい」と要望した。

また、参加率が低い調査項目については、今後、臨床検査精度管理検討委員会調査項目の変更を検討していくとした。同委員長は最後に、今回行った動画収録での報告会について、「新型コロナウイルス感染症が全国に拡散するかも知れない状況下であるため、このような報告会となったが、このことでもかえってPCR検査など、臨床検査の重要性が国民に広く認識されたのではないかと指摘。その上で、「国民の健康増進のためには、適切に精度管理された正確な検査を実施し、その結果を国民に返却する必要がある」として、検査機関の精度の更なる向上に向けた協力と、本調査への参加と支援を求めた。

令和元年度臨床検査精度管理調査報告会

臨床検査精度の更なる向上を

目指して

また、参加率が低い調査項目については、今後、臨床検査精度管理検討委員会調査項目の変更を検討していくとした。同委員長は最後に、今回行った動画収録での報告会について、「新型コロナウイルス感染症が全国に拡散するかも知れない状況下であるため、このような報告会となったが、このことでもかえってPCR検査など、臨床検査の重要性が国民に広く認識されたのではないかと指摘。その上で、「国民の健康増進のためには、適切に精度管理された正確な検査を実施し、その結果を国民に返却する必要がある」として、検査機関の精度の更なる向上に向けた協力と、本調査への参加と支援を求めた。

南から北から

愛知県
名古屋医報
第1454号より

傷だらけの老翁
林 浩之



昭和から平成に変わった最初の春、臨床研修を終えて大学病院へ戻りました。仕事にも慣れてきた頃に、90歳を超えた男性が入院してきました。転倒して歩けなくなり、かかりつけ医を受診したところ大腿骨近位部骨折と診断され、手術治療のために転院されてきたのです。

者と話をしているような気持ちになるのです。

この話が医局に伝わる

と、教授回診の際に、傷

を見せられておとうとする

医局員がごんごん病室に

集まって来ました。男性

は、その都度横を向くこ

とになるのですが、文句

も言わず「私を手術した

のは、そんなに偉い人な

のかね？」と言っています

ました。何の変哲もない傷

なのですが、それを見た

私たちは仰天してしま

りました。本当にびっくり

返りそうになりました。

「満州事変?!」。オーベ

手術の時に分かったので

すが、男性の大腿部には

銃創の跡があって、レン

トゲン写真でも弾の破片

が筋肉内に残っていました

。今回の手術で、骨折

を止めた固定金属もレン

トゲン写真には映りま

す。フィルムには、その

人の人生が刻まれていき

ます。男性には、私が四

つ目の大きな傷をつけた

ことになりました。

術後の医局カンファレ

ンスでは、私が経過報告

をしました。講師の先生

は医局員に向かって、「こ

の人は、福岡の神中と愛

知の林の2人が手術をし

た、唯一の人である」と

言いました。赤面しな

れは思い出せない話にな

っています。

私は山が好きである。

最近では通勤の途中に中高

年登山者を電車内で見掛

けることが多くなり、心

が動かされる。

終戦後、私の父は和歌

山県と三重県の県境の山

深い村で診療所を開業し

ていた。その影響もあり、

今でも山への憧れは心の

中に深く住みついている

が良くなったので、父は

単車で往診するようにな

った。往診の時、単車の

タンクの上に乗っけても

らい(現在では違反であ

ろう)患者さん宅まで一

緒について行ったことが

ある。山の上の一軒家的

な家が多く、山の麓に単

車を止め、急勾配を山上

まで登って行くのは子ど

もの足力では大変であっ

たが、「よう来たのら」と

と患者さん宅で頂いた

柘榴の実の甘酸っぱさ

と、夏ミカンを砕いた上

に砂糖をまぶした即席ジ

目は配そつな顔が

目の前にあった。

夏休みは今と違って塾

などなく、勉強し思い

出はない。父の職業柄

旅行などの記憶もない。

まだ伝染病が蔓延してい

る時代で、気小さい私

はとても怖かった。診療

所の待合室でうすくま

っている上級生を、父が日

本脳炎の疑いだと言っ

ていた記憶がある。

秋になると柿、山栗、

椎の実、アケビが採れ、

貴重なおやつであった。

冬には、雪の降ること

は稀であったが、何しろ

山中で寒く、暖房はこた

つ、まきストーブ、湯た

んぼぐらいしかなかった

と思う。通学途中の道沿

いの小川にはツララがで

き、水辺の草木が凍って

光り輝いていた。手の甲

は霜焼けでひび割れてお

り、服には青凍を拭いた

照り返った袖があった。

校舎は木造で隙間風があ

ったが、ストーブのよう

な暖房はなく寒かった。

その山村には小学校6

年までいたが、遊んで

かりで勉強する機会がな

兵庫県
姫路市医師会報
No.400より

山里の記憶
光野 正人

兵庫県
姫路市医師会報
No.400より

山里の記憶
光野 正人

兵庫県
姫路市医師会報
No.400より

山里の記憶
光野 正人

